



挑戦の夏

教育長 津野庄一郎

8月1日の栗島の朝、海の向こうに光兔山が見えました。離島研修会が終り役場に戻る頃、職員から「チャレンジ100の一行は、大内渚で休憩し、鷹ノ巣峠に入ります」との連絡を受けました。午後6時半過ぎ、子どもたち18名全員が笑顔でゴールすると、周りからは割れんばかりの拍手が起こりました。「途中何度もくじけそうになったけど、仲間が励ましてくれたので頑張れた」と声を詰まらせる子。メモをもたず感想を述べる子らの堂々とした姿…。やり切ったという満足げな表情から自信と誇り、そして大きな成長を感じました。

このイベントは日常から離れ、自然や集団生活の中で、やり抜く力、仲間を思いやる力、自分自身をコントロールする力などを身に付けることを目的に始まったもので、今年で10回を数えます。以来、教育委員会から実行員会に主催を変えて続けてきました。

その背後には、同行スタッフ（山行熟練の方々や自衛隊員）、サポートスタッフ（下見・試歩訓練を含めたボランティア有志・教育委員会事務局・役場運転員）の事前準備や当日の動きなど、目には見えない活動があります。特に熱中症対策の「水かけ」や「昼食等の調達」は欠かせません。また、全体を指揮する佐藤修一実行委員長兼隊長や保護者の支えは言うまでもありません。さらに米沢の前山みゆ子さんらのお心遣いにも感謝です。ありがとうございました。

「無事これ名馬」といいます。近年の異常な暑さ、熱中症警戒アラート発令中の活動は、まさに「命」に直結します。命は最も基本的なもので、精神鍛錬のために尽きてしまったら、元も子もありません。挑戦は素晴らしい。同時にそれは決して命を損なうものであってはなりません。今回は念入りな準備と配慮、一人一人の勇気と決断など、全て上手く結びついて成功につながったと考えています。

